



～阪南大学石井ゼミ・タイ研修プロジェクトの成果報告～

～タイとの懸け橋・(株)アトラステクノサービスの寄贈チップス～

昨年度とほぼ同じ9月6日(水)～11日(月)の期間に、同じくタイ・ブーケット島において、国際交流活動の一環として、石井ゼミ2・3・4年生総勢36名を引率しての研修プロジェクトを実施しました。今では学内では著名となった石井ゼミのタイ研修プロジェクトは、文部科学省の現代GP(グッド・プラクティクス)事業として取り組まれたことに始まります。学力評価だけでなく、広く学生のもつ多面的な能力や資質を引き出し、それを現代社会の多様なニーズに結び付けながら、総合的な人間力の養成を目指した現代GP事業は、偏差値教育では対応できない社会人の基礎力を形成する役割をも担っていました。すなわち、その事業には、変転極まりない環境に柔軟に即応するためには、いわゆる高度成長期のガンバリズム型人間感から脱却し、これまで世間に根強く流布する高偏差値=優秀な人材という考え方からの転換を図る政策的意図が込められていました。

阪南大学では、この現代GP事業を引き継いで、大学の敷居を自ら低くし、積極的に社会や地域とオープンに連携して、独自に課題を設定して問題解決していくスタイルの実践性溢れる教育を目的とする「キャリアゼミ」制度を新設し、現在、さらに産学連携型を明示的に取り込んだものへと進化・発展をとげるに至っています。

これまで紆余曲折のプロセスを経ながらも、石井ゼミの一貫したコンセプトは、① mangrove 植林を通じた環境問題への取り組み、② 国境を越えた交流活動による異文化理解の2つの課題に集約されます。この2つのコンセプトは、① 自然と人間の関係の改善・調和は、② 人間と人間の関係の相互理解をベースにしてこそ本領を発揮し、わかりやすく表現すれば、「木を育てながら、人を育てる」という理念に裏打ちされています。そして、この2つの課題を追究する中で、学生達のタイの総合的な地域理解を深めながら、タイから学んだことを教訓にして「アジアのなかの日本の未来」について、次世代を担う学生達に、少しでも創造性豊かに考えてもらいたいというのが、私の期待であり願いでもあります。

今年の研修プロジェクトにおいても、昨年同様、① バンガー湾のバン・パット村(Ban Pat)での mangrove 植林、② ブーケットタウンに所在する孤児院において多彩な交流アクティビティを行いました。

この2つの課題の実践の場をブーケット島・バガン湾エリアにしている意義と背景としては、2004年12月にいまだ記憶に新しいスマトラ島沖地震が発生し、その津波の直撃を受けた被災地であり、 mangrove 林のもつ防災機能や役割を実地に学ぶのには好都合のフィールドであるからです。私たちが宿泊したパトンビーチエリアの被害は、いまでもマスコミ報道の映像が目には焼き付くほど衝撃かつ甚大でした。そして、このときに被災し両親を喪った子供たちが収容され共同生活を送っているのが、昨年訪問している孤児院(サンシャイン・ビレッジ)で、痛ましい「津波による被災」を介して、①と②の活動の意義や価値を見出すことにこそ、昨年同様今回のプロジェクトの趣旨があります。今回は、カマラビーチのTUNAMI被害記念碑にも足を伸ばし、当時の津波の被害に想いを馳せつつ、多くの犠牲になられた被災者のご冥福を念じてきました。

①については、潮が引かない沼地同然の湿地エリアで、腰まで浸かる悪条件のなかで、苗木(かなり成長したもの)100本を植樹したことが特に印象的でした。手探り状態の満潮の沼地での作業は、見ているだけでも過酷で、靴や衣服の汚れを気にしても無駄であることを観念しなければならないほどの難業でした。そのほかにも、種子に近い苗木ともいえない苗を植樹しましたが、今年は100本程度しか植樹できなかった悪条件下の作業を初めて体験したことにより、 mangrove の生態環境の多様性を实地に学ぶことができる機会に恵まれたと、前向きにとらえることができるでしょう。ちなみに、植樹したエリアには、石井ゼミの看板を立ててもらいました。植樹活動は、どこの地域でも勝手にできるわけではなく、村長はじめ村人の理解と協力があってこそ可能で、村長のYAM氏(56歳)には昨年同様大変お世話になりました。

②については、昨年同様、スポーツ系(バスケットボール、フットサル、フリスビー、輪投げ、紅白玉入れ)と伝統的な日本の遊びや文化系(折り紙、塗り絵、紙飛行機)の2つの分野を中心に多彩なアクティビティを企画・運営しました。孤児院の子供達は、総勢約60名程度で、笑顔を振りまく子供達と充実した楽しい交流の機会をもつことができました。今回特筆すべきことは、孤児院のご厚意で、子供達と一緒に食べる昼食づくりという活動が新たに加わったことです。昼食づくり班を編成し、職員の方々の指導のもと、食材の調理加工を行って、汗だくになりながら、本格的な家庭のタイ料理を見事に仕上げ、子供達と一緒に食べる楽しく愉快なひと時を過ごすことができました。

さらに今回の研修プロジェクトのメインイベントは、③の課題として、孤児院の子供達に寄贈するオリジナルブランドのお菓子(ドライ・チップス)づくりを(株)アトラステクノサービスの多大なご支援とご指導によりチャレンジさせていただいたという点にあります。6月、7月と2回にわたって、鯛かおる社長に遠路あべのハルカスまで足を運んでいただいて、真空フライヤー技術と装置の原理、それを活用した6次産業化の意義、さらに実際の試作品を使っの品評とドライ・チップスの効果をご説明していただいたうえで、学生達23名が参加し、8月22日に実際のチップス製造の一端のお手伝いに着手いたしました。

工場内を見学させていただきながらの鯛社長の情熱的な指導とスタッフの懇切丁寧なアドバイスのもと、100袋の袋詰めチップスを作り上げることができました。菓子袋のデザインは、難航しながらも、学生と会社の共同作品として作成し、ニンジン、ジャガイモ、マンゴー、バナナ等のチップスをアレンジして混入した、一応寄贈するに相応しいものに仕上がりました。孤児院での昼食時に子供達に食べてもらいましたが、みんなの暖かな笑顔を見るにつけ、学生共々、鯛かおる社長の献身的なボランティア精神には頭が下がる想いでいっぱい、本当に感謝に堪えません。また、現地情報を収集し、現地日系企業との連携に労をとっていただいた(株)アズトラベルサービスの柴辻章社長はじめ、VEC事務局の支援・協力に対しても、この場をお借りして深謝いたします。



(孤児院へのお菓子の寄贈)

阪南大学経済学部兼大学院企業情報研究科 教授
石井 雄二

～高齢者セミナー(それでも歴史は繰り返すか)(前編)

団塊世代もとうとう70代に迫り、戦後の高度成長を一身に浴びてきた世代にどういう老後が待っているのか、2020年～2030年代は？(朝鮮半島動乱と日本の国家社会体制の変化の歴史的因縁について)

1、渡瀬恒彦氏の突然の訃報(72歳、テレビの十津川警部に憧れ)に団塊世代もショックを受ける時代に差し掛かりました。じゃ我々、団塊世代とはなんだったのか。堺屋太一氏は狭く(昭和22年～23年生まれ)限定していますが、実態は昭和21年から30年生まれの2,000万人の世代で、この世代が東京オリンピック、平成天皇のご成婚、新幹線を見て育ち、結婚し、家庭を持ち、家を買、車に乗り、家電製品を買、レジャーをし、子供を育てる中で大型消費景気(昭和30年代から始まった投資景気を繋げた)を展開し、戦後の高度成長を現出させたのです。

堺屋氏が過当競争と過剰設備をもたらした世代だと椰揄しましたがそんなことは全くないのです。2000年以降消費が盛り上がりがないのは、この世代が次々、リタイアし年金保険料支払い世代から、受給世代へと転換する大変化の時代に突入しているのが大きな原因です。

50兆円の年金給付額に対し現役世代の支払い保険料30兆円のアンバランス状態が明確に示している(差額は税金投入10兆、GPIFの取り崩し10兆)生産年齢人口8,000万人時代から7,000万人時代へ。経済成長は先ず人口問題が解決されない限り再興はあり得ないのです。

(次ページに続く)

2、さて、この4月から7月にかけて、国債市場に異変が起きた。

戦後初めて10年国債の取引不成立が2回起きた。

日銀の保有国債等も500兆に迫り、市場取引者に日銀への疑心暗鬼が生じ、結果この異常な金融緩和の副作用が表れたと言える。

欧米の金融緩和の終焉に伴い、長期金利の上昇が日本にも波及してきたが、日銀の強引な指値オペでなんとか0.1%以下に抑え込んだ。安倍政権は自分の手でオリンピックの成功と歴代総理が成しえなかった憲法改正を成し遂げたいと言う『レガシー』作りに入っており、この何となくふわっとした0%金利による景気回復感が政権維持装置であり、2021年総裁任期までは長期金利0%代維持のため日銀の国債購入を続けざるを得ない。

3、しかし、こんな財政金融問題を一気に吹き飛ばしてしまう朝鮮半島が一気に緊迫化したことです。

近くて遠い国 この朝鮮半島の動乱は不思議と日本の国家社会体制の変化と何故か不思議な連動性を感じざるを得ないのです。

4、古くは663年百濟再興の為に朝鮮半島に兵を送ったが、白村江（はくすきのえ）の戦いに敗れた為、天智天皇は唐・新羅軍の防衛の為に西日本各地に城を構えたが、結果的に天智系の体力を奪い、壬申の乱で天武系に取って代わられた。

5、豊臣秀吉の文禄・慶長の朝鮮役です。

石田三成内務官僚と大谷吉継軍務官僚による中央集権体制がこの朝鮮役により政権の弱体化が始まり、豊恩顧大名の離反が始まり、関ヶ原の役を経て各藩に居る程度の自治を認める徳川家の幕藩体制へと移行した。

6、明治維新後の武士階級の不満のはげ口として西郷隆盛の朝鮮出兵（李朝の鎖国政策撤廃）の提案が否定されると、閣僚を辞任して、そして西南戦争が引き起こされ、結果 大久保利通による中央集権国家体制が敷かれ、日本は富国強兵へと突き進んでいった。 <次号に続く>

(2017年7月記)

日本生産性本部認定コンサルタントによる財政問題研究会
歴史問題研究班 班長 不動産鑑定士 山口 孜

～0歳からの足育～ 生涯足育プロジェクト®

足育プロジェクト協会では“足育”を「足の大切さを知り、足を健康に育てることを、家庭を中心とした日常生活に習慣として取り入れ、実践すること」と定義しています。足は毎日私たちをいろんな所へ運んでくれる道具です。

お口の健康は自分の口の状態を知り、毎日正しい歯ブラシを続けることで守られます。現代は外遊びの減少や、舗装された道路、バリアフリーなどの社会的な要因により、子どもの足の浮き指、扁平足などのトラブルが増えてきています。また、合わない靴を履く弊害で外反母趾や足裏のタコ、ウオノメで人知れず悩んでいる方も多いためです。

足は健康は自分の足のサイズを知り、自分の足に合った靴を正しく履き、適度な運動をすることで守られます。

毎日、つま先でトントンと履く靴を踵でトントン合わせて紐を結び直す。いつも車で移動しているところを歩いてみる。

生活の中で足育を気にかけて生活をする事で、からだの土台である足を健康に保つための知って得するポイントを足育講座でお話ししています。「仕事ができるビジネスマンのための足育講座」「パンプスだって痛くない！仕事力UPのための足育講座」「我が子の未来を拓く足育講座」「ママのための足育講座」などご依頼に応じて講座を行なっています。

今秋、10月15日（日）梅田スカイビル24階積和不動産関西において発達神経内科医の林万里先生を東京から関西にお迎えして「赤ちゃんのからだの発達 気になること 大切にしたいこと～」のテーマで協会主催の講演会を開催しました。今後も多くの世代の方に足を育む大切さを伝えていきたいと思います。

特定非営利活動法人 日本足育プロジェクト協会
代表 玉島 麻里

住所 〒639-1132 奈良県大和郡山田市高田町102-7-310
電話 0743-85-6088



(玉島麻里 代表)



今年も「みどりのサンタフェスタ」が植育・食育・健康をキーワードに開催されます！

主催：（一社）テラプロジェクト みどりのサンタ実行委員会
実行委員長 小林 昭雄（大阪大学名誉教授）氏

子供の頃からみどりに触れる環境を提供し子供達の心を育むことやみどり豊かな街づくりの一助となることを目的に開催されます。

◆開催日時：平成29年12月1日（金）～9日（土）10:00～17:00

◆場 所：うめきたガーデン（JR大阪駅北隣）

◆参加費：無料（シンポジウムは要事前申込み）

◆イベントの一例：みどりのサンタウォーク、クリスマスツリー作り、柑橘・オリーブ等の展示販売、フードコーナー、シンポジウム（みどり化ワークショップ、アンチエイジング、中小企業社長塾、若者からのメッセージほか）等々。

詳しくは【URL】 <http://thera-projects.com/> をご覧ください。

主催者からは「もっとみどりを楽しもう！」と学術シンポジウム、レモン/オリーブワークショップ、各種イベントへ、皆様のご参加を呼びかけておられます。

記・関西支部 事務局

～VEC関西より～

・先日、地下鉄で出社するため混んでいたのがボンヤリ吊革に掴まっていたら前に座っていた30代くらいの男性が、どうぞと席を譲ってくれた。初めての出来事で面食らったが好意を受け入れることにした。内心ショックで、そんなに年寄りに見えたのか！客観的に見て、疲れてしんどそうだったのか・・・。元気なつもりが傍からはそう見えならしい。暫く考え込んでしまったがベンチャー精神はまだ健在です！（本田）

・最近、高速道路で「あおり運転」での事故のニュースをよく聞きます。私も子供が小さい時に経験をしたことがあるので、その時の恐怖は今でも覚えています。高速道路では逃げようがないので車を止めるしかありません。普段通りの運転をしていても何が切っ掛けでそういう事になるかも知れないと思うと怖いものがありますね。安全運転第一！！（藤本）

・「スポーツの秋」といえば運動会シーズンです。私が通っていた幼稚園もかわいい園児の大歓声が聞こえます。今年はなんと運動会で私の幼稚園時代の担任の先生と何十年ぶりの再会ができました。当時私は鉄棒から落ちて顎を切り病院へ運ばれた苦い思い出があります。でも先生が

私に対する再会した第一声は「けがの痕は大丈夫？」とずっと気にしていたと。本人でさえとくに忘れていたのに・・・。来年からお互い元気な証として幼稚園の運動会での再会を約束しました。（濱本）

・若い世代や地域の為に尽力されています石井教授と小林理事長からのメッセージから熱い思いが伝わって参ります。また山口様からは今回も鋭い分析でご寄稿頂きました。そして子供から大人まで足育について多方面でご活躍されています玉島代表からも足と靴の大切さを再認識させて頂きました。皆様のベンチャー精神溢れるご協力に感謝申し上げます。（澤村）

<交流会の予定>

平成29年12月4日（月） 株式会社 テーブルクロス
代表取締役 城宝 薫 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293